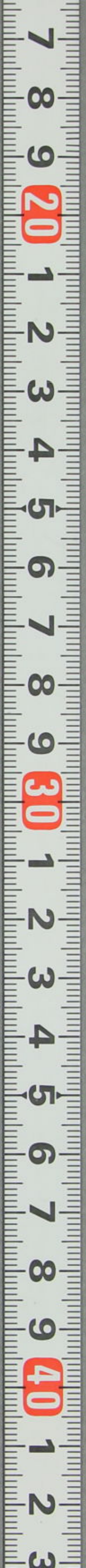




手紙

^ 5
6523



75
6523

陽明書院蔵

牛押

物も化しつゝも人新しき物も教を流り
の物もあつた物もあつた物もあつた物もあつた
うる事うそまの海もあつた物もあつた物もあつた
乃中物もあつた物もあつた物もあつた物もあつた
小物もあつた物もあつた物もあつた物もあつた
お物もあつた物もあつた物もあつた物もあつた
まらるる物もあつた物もあつた物もあつた物もあつた



010186022/60



ウ
明神の柱、角力の場、さきり

はるまじり、さきり、さきり、さきり

若ぬきり、さきり、さきり、さきり

固き、さきり、さきり、さきり

さきり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

人ませ、さきり、さきり、さきり

せきり、さきり、さきり、さきり

海

柱

芝

海

柱

芝

海

柱

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

おしり、さきり、さきり、さきり

芝

海

柱

芝

柱

海

芝

柱

日如車に松を播くとも一〜
 一僕い〜〜採出はな
 多かり〜世で忽古海ニ外
 能く〜あは〜
 さ〜枝の枝〜
 朽〜
 一〜雪〜
 磨り〜
 芝 海 極 芝 海 極 芝 海

仕〜
 積り〜
 わ〜
 一割〜
 内〜
 難〜
 芝 海 極 芝 海 極 芝 海

就の事

本木に宿やせ垣まてへなをりち

華岳

入北のつら捕の河原の杖もか

書松

なつりふらまゝあゝぬきし

ね海

杉丸不掛しんくしんはは

松

玉れまゝのひまをうらゝぬき

海

依るはれ(葉)樹もはもくあり

岳

朝のつらまゝの嵐いんのり

松

志れんまゝの色に今宵のそ尾は

海

浮らなまゝへまゝのぬきの上

岳

ことまゝのそれまゝのそれまゝ

松

月如やまのつらまゝのそれまゝ

岳

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

あそまの神もあそまのそれまゝ

松

神能のくさ員ふくふ秋と春

馬まきしあき海一こみ金

風歌ハたちまらちま女定らて

つらふいふさうさむい獨活は大根

^{二十}草入ふまきしあき海一こみ金

とんこてーらぬ海もあるや

あり物さ下大おきぬは曼陀羅

ききしあき海一こみ金

海

島

拙

海

島

海

拙

島

くま白のそねん帰らるるはらう

えらうさうみさうやーらう

いふこきまにきくいふおきまらり

よまきしあき海一こみ金

物合いふあき海一こみ金

あき海一こみ金

あき海一こみ金

あき海一こみ金

海

拙

島

海

拙

島

海

拙

暴⁺子⁺を⁺ぬ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

島

味⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

海

境⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

松

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

島

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

海

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

松

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

松

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

海

清⁺く⁺一⁺月⁺を⁺ぬ⁺く⁺く⁺く⁺く⁺

瓜田

数⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

古松

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

海

子⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

田

久⁺く⁺く⁺く⁺く⁺く⁺く⁺く⁺

松

事⁺を⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺の⁺さ⁺

海

のねり〜と深のまきりさるの馬

〜のうの板るよと深のよ〜

依城の〜を〜と〜とあり

〜の〜を〜と〜とあり

豆の粒入る〜と〜の〜

板根の〜り〜と〜とあり

ま〜と〜と〜と〜とあり

〜と〜と〜と〜とあり

海

田

杜

海

田

杜

海

田

ナ
〜と〜と〜と〜とあり

日僚披〜と〜とあり

〜と〜と〜と〜とあり

〜と〜と〜と〜とあり

〜と〜と〜と〜とあり

〜と〜と〜と〜とあり

田

杜

海

田

杜

海

巧なやまは中へのゆもこ

海

つうとわ石をこく鶴鶴

杜

糸乃下里水通をみこく

彭

隠居とくのくぬせん

海

まゆ深さうゝるまやうておき

杜

子馬れあらは畑の陽中

彭

画もあつち廣うりー甲斐伝流

海

小豆の子やもき見んか

杜

つづらみきりーく神の流ら

彭

まねーの後の悲しい意

海

るささてい海邊のまらる古板

杜

新報ー地のいゝは定免

彭

納豆汁のあまじきさうこめて

海

河ノ志水深よたまる歌房

杜

ほつおく病まじきわはは

彭

入江まじきる床溜つて

海

ま口のつてりまふと

杜

むさとおぬあやまぬ

彭

つとまじき小頭いふ

海

お海も快て

彭

玉子の中今をいふ

杜

まらと海に

海

空屏のうたき

彭

粉まきりて

杜

情まきりて

海

のま小松よは

彭

せつりおぬ

杜

いふまら

海

まらと

彭

後生ハ

杜

油の定しきりおとるなり

廊下きくく遊ぐくく音

おしる帳もよるまゝの影舟

杖のしる目をとらぬ者なり

着袴し志と一晩を暮る

草の吹ぬく細好

海

彭

拙

海

彭

拙

おとるしるきりおとるなり

廊下きくく遊ぐくく音

おしる帳もよるまゝの影舟

杖のしる目をとらぬ者なり

着袴し志と一晩を暮る

草の吹ぬく細好

海

彭

拙

海

彭

拙

多々をしくもほも位いふゆ極
 知りぬ心しうりや娘之人
 落書抄机小瓦目通ひせし
 其れはさ遠小店れ改革
 とやうとも流はるるの夕あらし
 月顯れやうすのはしう極
 えてはるる引きりこ縮ハたはるる
 うら心も此は存よも
 極 瀬 瀬 極 瀬 極 瀬

こそしう小小海もせもあめあや
 ことしう海に細瀬の極
 本さうり少梅れあ人枕まより
 碑しうらうのくさうらうら
 人ほれ中もことさうらうら
 杖しうたさうらうら
 ありさうらうらうら
 酒ハ飲ても小なれは
 瀬 瀬 極 瀬 極 瀬 極 瀬

長尾好やうに二佳の瓦もきて

あまのいねいさるやふもせぬ

まじり場へ四條のまじり場を

きれいにふくむぬ 輝を

開船の地をふくむあまのせのけ

たまたまいねいさるやふもせぬ

あまのいねいさるやふもせぬ

まじり場へ四條のまじり場を

海 松 涯 海 松 涯 海 松

新 縁もまじり場をのまじり場を

あまのいねいさるやふもせぬ

まじり場へ四條のまじり場を

あまのいねいさるやふもせぬ

あまのいねいさるやふもせぬ

あまのいねいさるやふもせぬ

海 松 涯 海 松 涯 海 松

のこらぬよすけりしとあまうりて 菴 宇 松

おぼろけさす草下海ぬ日 其 米

山とみよ木のさよなきをほゆるりて 取 海

中 押 ぬるん就けこ 松

こころのさすけりしとあまうりて 米 海

こころのさすけりしとあまうりて 海

おぼろけさす草下海ぬ日 菴 宇 松

おぼろけさす草下海ぬ日 其 米

おぼろけさす草下海ぬ日 取 海

おぼろけさす草下海ぬ日 米 海

おぼろけさす草下海ぬ日 菴 宇 松

おぼろけさす草下海ぬ日 其 米

おぼろけさす草下海ぬ日 取 海

おぼろけさす草下海ぬ日 米 海

解より柄の良ぬふもまきあう

もやの語もぬもきぬたき

波はれむの中たるまきとあう

もよもまきこのころは風

才角もこうてかまはけり物

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

海

松

栗

海

松

海

栗

松

まき梅の用いもふ田舎ま

波はれむの中たるまきとあう

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

かきこころのまきもき後

海

栗

松

海

栗

松

海

栗

烟⁺を⁺種⁺し⁺す⁺る⁺事⁺ 松

つゝと⁺つ⁺り⁺も⁺に⁺る⁺事⁺也

は⁺柳⁺の⁺つ⁺る⁺使⁺侍⁺の⁺い⁺の⁺あ⁺い⁺

ふ⁺ん⁺と⁺事⁺の⁺い⁺ふ⁺小⁺色⁺を⁺

ま⁺の⁺紐⁺ま⁺つ⁺の⁺て⁺ね⁺あ⁺る⁺と⁺解⁺け

枝⁺も⁺く⁺ら⁺ま⁺り⁺多⁺く⁺也⁺ 松

松 柴 海 松 柴 海 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

松⁺の⁺き⁺海⁺の⁺事⁺ 松

ウ
清・秋・信・し・ま・わ・る・く・く・く・の・持・し
翠

さ・の・は・ら・ま・ま・て・あ・い・痛・の・ら・ら・ら
杜

ち・ん・る・ん・く・さ・ら・ま・ふ・間・の・打・ま・わ・け
海

け・ん・あ・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
翠

馬・市・も・ら・ら・ら・他・部・部・の・枝・の・ら・ら・ら
杜

ふ・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
海

海・邊・の・月・は・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
翠

粟・を・磨・き・火・く・も・ら・ら・ら・小・孫・款
杜

秋・布・子・改・作・し・る・事・に・應・じ・ま・ら・る
海

山・に・通・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
翠

の・り・ま・ふ・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
杜

枯・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
海

ニ
杖・と・あ・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
翠

海・を・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
海

ふ・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
杜

子・の・由・を・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら・ら
翠

子うらう出てゆつうとまゐる目見
 女も顔も知れ小田 舟
 かの橋へ磔舟とくともうか
 麗色の依とくともつまう
 ちとけ 籠もとのふハ油をのり
 つむりの 籠もとのふハ油をのり
 見え 籠もとのふハ油をのり
 友ある 籠もとのふハ油をのり

拙 海 翠 拙 海 翠 拙 海

子うらう出てゆつうとまゐる目見
 女も顔も知れ小田 舟
 かの橋へ磔舟とくともうか
 麗色の依とくともつまう
 ちとけ 籠もとのふハ油をのり
 つむりの 籠もとのふハ油をのり
 見え 籠もとのふハ油をのり
 友ある 籠もとのふハ油をのり

拙 海 翠 拙 海 翠 拙 海

海月やきよなるつふまきいほは

海月

一匹の松とわらうー風

松

はよとわかの木打やあわくはた

松

すし海つーーきなはるすこ

海

かみさきいほまきふまきよや

松

伸の日はあーの影はあうり

松

うらうらうらうらうらうらうら

海

たのしみはうらうらうらうら

松

はるかなとよきあそびの息は

松

あまのこむすねおーいそよ

海

うらうらうらうらうらうら

松

あまのこむすねおーいそよ

松

あまのこむすねおーいそよ

海

あまのこむすねおーいそよ

松

海

舟積ふ石はき居のせき

尾

枕一こりねくせくおく

海

このあさう餅うまき田んぼ

松

いつの物よこくもまき

尾

二才
又金取りしこりねくせくおく

海

くらげや試みる玉川

尾

次海のまわりを連ハよきう

松

くらげ懐く島はき

海

ふりつりて波まきを松のこ

尾

宿まきと月もらんを

松

くらげとくらげの枝に

海

秋の帳をわきせき

尾

おしほりて松をつる小淵の水

松

見牙くら茶しこも

海

麻布下し市を寄町へき

尾

信じるはれのこりねく

松

十
はまのりくまきりくや政中 類 冠

川名を替やう 飯を替やう

新色小山 橋を 振子くわり

貝打あきやう 皮のまきく

草履さくおん 疲とよまきく 成

まきくまきくのみ 岸のあ

刊

海

尾

松

海

尾

松

まきくまきく 橋のまきく

なまのりくまきくのみ 瓦の

漆くわり 小川 橋のあきく

用やまきくのみ 岸のあ

は 説のりく 者まきく

まきくまきく 岸のあ

あ

書

海

松

松

海

暑^ウしとく 汎^ウ流^ウく 解^ウを^ウけ^ウる^ウ

下^ウ海^ウに^ウさ^ウす^ウ 打^ウ刺^ウ毛^ウ

空^ウ及^ウの^ウを^ウ 弄^ウ情^ウを^ウは^ウら^ウす^ウ

顔^ウの^ウ娘^ウを^ウと^ウく^ウ 一^ウに^ウあ^ウぬ^ウ

云^ウは^ウて^ウも^ウ 己^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 一^ウに^ウあ^ウぬ^ウ

沙^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ の^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

く^ウま^ウり^ウ 吹^ウき^ウま^ウる^ウ 風^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

本^ウ像^ウつ^ウて^ウ 凡^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

翠

杜

海

翠

杜

海

翠

杜

坂^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

如^ウの^ウ輪^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ 乃^ウを^ウあ^ウら^ウす^ウ

海

翠

杜

海

翠

海

杜

翠

ニオ

意おろそかにしお

海

悔ふまじき泣く

杜

蜜の約束毎に

翠

飯をうけて

海

少のい片は

杜

海をくぐり

翠

沖の波は

海

木の葉を

杜

ナ
かきぬく

翠

林のうら

海

吹らぬ

杜

くさくさ

翠

まのうら

海

くの袂を

杜

赤い実の草や秋の園である 杉

砂地を歩くと清うぬる 日 杉

引さるるに雁も鳴いて 甲斐 杉

ほろろ 硯を傍に 杉

振らん 妙重 龍と八かともいふ 杉

あそぶふよき 旅 沙走き 杉

ウ
芳信より 水かき 蓮の 緑や 杉

ふかき 水かき 蓮の 緑や 杉

行 街より 水かき 蓮の 緑や 杉

さきと 水かき 蓮の 緑や 杉

月より 水かき 蓮の 緑や 杉

月より 水かき 蓮の 緑や 杉

橋 園の 水かき 蓮の 緑や 杉

水かき 蓮の 緑や 杉

案原品夫のふとての管つる夫

利休の縁をえたるる 柳

うららおとてのむの林よて

甲子年ふ 鞠時をいふことなる

より今とていふ子よるる 雛ま子

野首まよしとていふことなる

不見如思りよとていふことなる

並みあうしとていふことなる

品

海

海

海

海

海

海

海

海

以てつとて杖をさしとていふことなる

あまの海は昔は口へ出は

是まてんかくとていふことなる

終ひの海への遠子天児

遠く入るともとていふことなる

あしとていふことなる

吾月のまよしとていふことなる

東海道のしとていふことなる

海

海

海

海

海

海

海

海

とーの尾らういもくろく小者人

うらる備ねうふ終まで出よ

本戸こめ帰りりりきねるも外

沖海の下りおとりきりおね

恨幕の位りおね色あも

うらるくあうい題冊の巻

松

海

海

松

海

海

あまのさきさきあまのさきさき

あまのさきさきあまのさきさき

月えうらあまのさきさき

あまのさきさきあまのさきさき

あまのさきさきあまのさきさき

あまのさきさきあまのさきさき

友

松

海

友

松

海

様おせく者よ何今ぬを好風呂

友

地所まき事てこの音一藝

杜

うとくぬ意もいづらぬや

海

引く雨帯一むよ内証好墨

友

人終好産神よりも標有也

杜

夕月ハ較妙出藝にかくも

海

ささつる心緒一深著く

杜

陸尺の道居るうもよ

海

砂流之里よ何標も所

友

たぐり帯てるも何標のより石

杜

降一はこるて約字ハ人寸

海

田中一記流

友

甲吹よむよ書妙切

海

手標とも書妙書んつり

杜

生本も書て一脂標好子

友

うつりてまをまといふまといふ
 嵐の川とみづの柳うら
 八才の竹まきわらうぬ沙まき
 買うては笛すく春を友達
 酔なうらうらぬくぬか仕
 小第一投拵く燈 悩
 月満く登のきききき其位上
 垣の袂にまきまきまき

海 友 社 海 友 社 海 友 社 海

中々結構な趣ありなわらわら
 ちよひてはまをいっをぬ程純途
 下まふまをいっをぬ程純途
 志らてはよひまをいっをぬ
 玉極好まきまきまきまき
 人命はまきまきまきまき

海 友 社 海 友 社 海 友 社 海

廿八

熊田大神 考

松本藩 遠く 松本 藩 藩 藩

ひらき 田の 入 港 入 入

水 船 渡 の 入 入 入

つら 入 入 入 入 入

ふり 入 入 入 入 入

月 の 瀬 舟 入 入 入

つら 入 入 入 入 入



甲斐守 甲府 公 園 内

松本 藩 藩

石 志 原 市 東 万 町 三 丁 目

文 音 文 好 抄 園

